社民党多摩支部事務所
〒206-0033
東京都多摩市落合3-1-3-103
TEL/FAX 042(376)4886

THE SHAKAI SHIMPO
社会新報
社民党
号外 2016◆8.31
発行所
社会民主党全国連合機関紙宣伝局
週刊（水曜日発行）
〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-4-3 永田町ビル 7F
電話代表 03(3592)7515・振替 00140-1-3203
●定価 180 円●1 カ月 700 円●送料 160 円

いちぢ きょうこ
伊地智 恭子 の
多摩 市議会レポート No.5
●6月議会特集

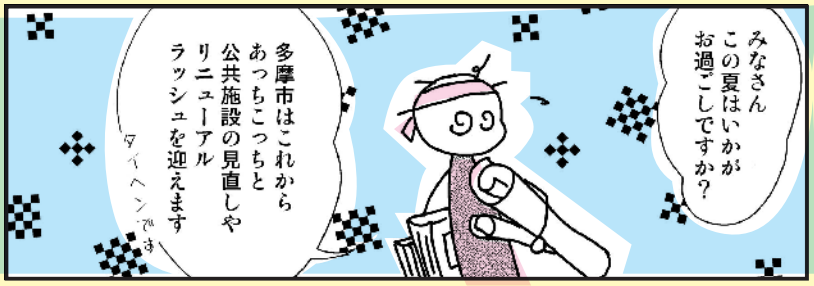
コミック・レポート
「タンバリン通信」スペシャル
『市民の意思』は
どこにある？

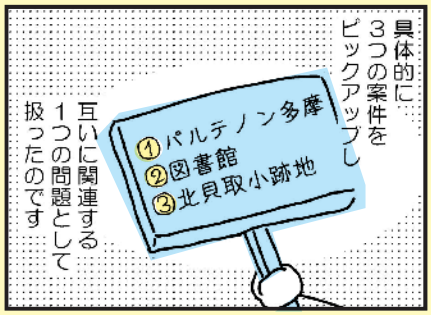
公共施設は誰のものなのか

公民館やコミュニティセンター、公立図書館などはみんなの税金で建てるもの。市民の暮らしに役立つ一番身近な、それだけに大切な施設です。
建て替えや存続・廃止を考える時には、市民のニーズや生活の中の比重をよくよく考慮する必要があると思います。

前回「判りやすい」とご好評をいただいた多摩市議会レポート。今回もいぢちの渾身のコミックでお送りいたします！

▶その１：やっぱり、あまりに巨額の予算



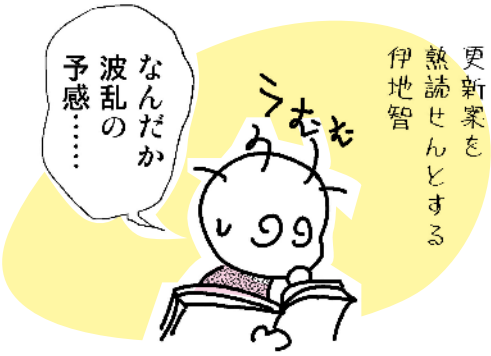


◆「公共施設の見直し方針と行動プログラム」とは

平成 25 年に打ち出された行政計画で、「少子化・超高齢社会に向けた持続可能なまちづくりのために」という副題が示す通り、未来の人口減を睨んで公共施設の運営・管理を最適化するために作られました。個々の施設について、今後どうするかという市の方針を記載しています。

今年がちょうど更新時期にあたり、この７～８月に更新案の市民説明会とパブリックコメント募集が行われました。

集まった意見を参考に、9 月に更新される予定です。



◆70～80億といわれる改修費をどこから？

パルテノン多摩の改修計画が大きく動き出した要因のひとつに、これまで新規の計画にしか使えなかった都市計画税が改修でも使えるようになった、という点が挙げられます。これは多摩市の行政や議会の熱心な働きかけもあって実現したことですから、長年の努力がしっかり実を結んだのだと言えます。

しかし一方では、その他「2年間で約37億円の地方債借り入れ」及び「一般財源から約1億5千万円繰り入れ」という予算案が立てられていて、市民の負担はやはり重くなるということがわかります。

ちなみに、基本設計だけで今年度立てた予算は約２億円。やはり、市のサイズには不釣合いなほどの大改修計画なのではないでしょうか。